文学研究科長からのメッセージ

３月11日、M9.0という世界でもまれに見る巨大地震が発生、そのもたらした津波により、岩手県・宮城県を中心に多くの犠牲者の方が出、多くの家屋が失われました。被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。また、被害を受けられた方々の生活が一日も早く通常に復旧することをお祈り申し上げます。

今回の大震災に際し、東北大学本部では地震発生直後に災害対策本部を設置し、学生・教職員の安否確認とキャンパスの安全確認・確保を行って参りました。その結果、私ども文学研究科においては、現在（３月22日）のところ幸いにも教職員全員、そして93％の学生・院生の安否確認が取れています。今後、犠牲者の出ないことを強く願っているところです。また、建物については軽微な亀裂の入ったところはあるものの、大きな問題はなく、施設部の行った応急危険度判定では建物の使用が可能な「調査済み」の判定を得ております。

地震発生時、わたくしは文学研究科棟６階におりました。大変な揺れで、これまでかとも思いましたが、幸い、３年前に耐震工事を行ったおかげか、揺れが収まった後、建物の中にいた教職員・学生で大きなけがをしたものは皆無であるばかりでなく、建物も先に述べましたように、少し亀裂が生じたくらいで、大きな損壊はありませんでした。インフラ関係では、電気・水はすでに回復し、あとはガスの復旧を待つばかりです。

その一方で、研究体制は大きなダメージを受けました。文献中心の研究が主流である文学研究科においては、どの研究室にも大量の資料・書籍を蔵しておりました。それが今回の大地震により足の踏み場もないほど散乱しました。当初は、書籍の海を見て茫然自失し、どこから手をつけてよいかわかりませんでした。しかし、そのままにしておいてよいわけはなく、余震の頻度がやや下がった頃から、各研究室においてあと片付けに着手し、地震から10日あまりとなった現在、なんとか使えるようになった研究室もいくつか出て参ったようです。

今後、もとの静謐で安穏な研究室を取り戻すべく、教職員・学生一丸となって全力を尽くしていく所存です。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

平成23年3月22日

東北大学大学院文学研究科長
花登正宏